

施設名：公立昭和病院

課題名：がんと診断された時からの緩和ケアの提供体制の整備

訪問日：平成 30 年 12 月 17 日

訪問施設：〇〇病院

アウトカム（設定指標）		Plan		Do	Check		Assessment	訪問施設による 評価欄
最終目標	準最終目標	なにを	どのように	実施状況	評価日	達成状況	改善策	
がんと診断された早期から苦痛のスクリーニングを実施し、必要な時期に必要なサポートが受けられるよう支援体制を整える	苦痛のスクリーニングをすべての外来・病棟にて導入することができる	① 外来において、苦痛のスクリーニング用紙を患者自らが手にとって医療者へ伝えられるシステム作りを行う	① -1 各外来に苦痛のスクリーニングシートの設置について、4月中に 外来部会で検討を行う	終了	9/3	50%	自己申告制では、がん患者だけを優遇措置を取っていると誤解を招きやすいため、保留となった。現在は、がん患者に対して初回スクリーニングは実施し、必要に応じて継続的に支援が来ているため、現行通り進めていく。	良
			① -2 5月までに苦痛のスクリーニングの目的や効果についてポスターを作成する	終了	9/3	0%	同上	可
			① -3 5月までに苦痛のスクリーニングを受け取った後の患者へのアプローチ方法のマニュアルを作成し、外来に設置していく	終了	9/3	0%	同上	可
		② S5病棟にて苦痛のスクリーニングの運用が円滑に行えるよう支援	③ -1 苦痛のスクリーニング結果を病棟カンファレンスを通して苦痛の緩和について検討し、看護介入できるようアドバイスを行う	実施中	9/3	70%	継続	優

		する	② -2 専門的緩和ケアを希望された場合には、主治医の了承のもと、緩和ケアチームあるいは専任看護師の面談につなげる	実施中	/	70%	継続	優
--	--	----	--	-----	---	-----	----	---

**【総評】**

①病棟における苦痛のスクリーニングはしっかりと実践されているようです。

この経験を踏まえてスクリーニング方法に検討を加え、外来への導入に再度取り組んでいただきたいと思います。

②苦痛スクリーニングに対して認定看護師が積極的にカンファレンスに赴き、病棟スタッフとも連携が取れていると感じた。また、病棟カンファレンスを通して看護介入できるようアドバイスのみならず、ラダー教育による徹底した看護教育にも力を入れており、看護部としてがん患者と向き合っているように感じた。